

平成29年度JKA補助事業

会議名	開催地	開催日	参加国・機関及び人数	出席者(報告者)	概要
IEC/TC109/MT1/JWG4	フランス、パリ	5月30日～6月1日	13名:仏3、伊1、独4、米2、丁1、蘭1、日1 (Web参加除く) メーカー:9、試験機関:2、試験/認証機関:2	成田 和人	①109/160/CDに対して提出されたコメントの審議(全298件、うち日本コメントは29件) →1部、その場で結論が出せなかった項目は、別途設置したTFで検討する。 →2日間で消化できたのは、約半分の140件程度であった。 →この結果を受けて、残りのコメント審議を行うために11月末にフランクフルト会議を設定した。 →フランクフルトでの検討完了を目標とし、12月に2nd CDの発行を目指す。 →IEC60664-1の検討遅れに伴い、日本がプロジェクトリーダーを担当するIEC/TR60664-2-1の改訂作業にも遅延が生じる。  ②2018年6月:東京会議のスケジュール →TC109国際の委員長及び幹事と話し合い、東京会議のスケジュールを決定した。 2018年 6月18日(月) PM 2:00 - PM 5:00 MT1 6月19日(火) AM 9:00 - PM 5:00 MT1 6月20日(水) AM 9:00 - PM 5:00 MT1 6月21日(木) AM 9:00 - PM12:00 Plenary PM 1:00 - PM 5:00 MT1 →招致するTC109 Japanese National Committeeは、この日程に合わせて、会議開催の準備を進めることを伝えた。
ISO/TC268/WG3	ドイツ、ベルリン	5月30日	日本13名 UK 1名 FR 1名 USA 2名 中国 4名	細川 寛	・日本提案の案件について、以下のとおり進捗があった。 1)「電池バスによるスマート交通」(ISO/GD 37158):CD投票結果を受けてコメントの確認及び対応についての議論を行い、DIS投票に付すことで合意。 ・日本から提案予定の案件について、以下のとおり進捗があった。 1)「都市間ラピッド・トランジット型スマート交通」:案件の概要の説明を行い、NWIP投票に付すことで合意。 2)「都市向け貨物輸送サービス」および「都市向け省エネ運行」:ISO化のターゲットに関する話題提供を行い、今後の提案に向けた議論を開始。 ・米国から提示された「パーク・アンド・ライドによるスマート交通ガイドライン」については、日本を含む海外の意見を取り入れる形で修正されることとなった。 ・英国から提案予定の「自動車線の自動運転によるスマート交通」について概要を確認した
ISO/TC189	カナダ、モントリオール	6月26日～6月30日	オーストラリア、アメリカ、ブラジル、イタリア、スペイン、日本、メキシコ、カナダ、中国、イギリス、イスラエル、スウェーデン、ドイツ、インド、ノルウェー 計15カ国 50名	水澤 秀木	・日本より、JIS A 5557(外装タイル用有機系接着剤)を基とした規格提案を行っていたが、昨年10月にISO14448として正式に発行された。FDIS投票において試験板体の定義について指摘があったため、次回改正・確認時まで板体の定義について検討することとなった。 ・滑り試験方法の検討では、各国が採用している試験方法は独自のものが多く、一つの試験方法に統一することについてはさらなる議論が必要との意見があり、継続審議することとなった。
ISO/TC189	カナダ、モントリオール	6月26日～6月30日		高橋 正男	
ISO/TC189	カナダ、モントリオール	6月26日～6月30日		網本 浩二	
ISO/IEC JTC1/SC17/WG4	米国、オースチン	6月19日～6月23日	4ヶ国・約17人	山田真生 大日本印刷(株) 情報イノベーション事業部 C&Iセンター	・ ISO/IEC 7816-4 PDAM1・ISO/IEC 7816-4 PDAM2・ISO/IEC 18328-4 CD コメント処理完了。Editorは7月21日までに改訂DoCと改訂原案を回覧し、8月4日までWG内レビューを実施して8月18日から次回投票に臨むこととなった。 ・ ISO/IEC 19286 DIS・ISO/IEC 7816-9 DIS コメント処理完了。Editorは7月5日までに改訂DoCと改訂原案を回覧し、7/14までWG内レビューを経て、7/21から次回投票に臨むこととなった。 ・ ISO/IEC 10373-3 Minor revision CIB ballot 投票はApprovedとなったものの、投票原案に対してドイツが反対を投じていたため、反対理由となるコメントに対して議論しかかったが、既に投票は完了しており、ドイツは別途Defectを提示する必要があるため、議論は打ち切りとなった。
ISO/IEC JTC1/SC28	英国、ロンドン	6月15日～6月22日	30名(英3、米6、中4、蘭1、韓1、日本11、Admin 4)	森本 悦朗 (SC28/WG5J主査、リコー)	SC28/WG5の取組み中案件のうち、ISO/IEC TR21565「Viewing environment guideline for office equipment」については、PDTRの内容について審議が行われ、合意されたことから、7月末までにDTR投票を開始することとなった。PWI-1「Guidelines for the development of an Ontology for Office Equipment」については、先日実施された投票結果を受け、内容について審議が行われた。近年の環境変化に伴い、オフィスの形態も変化してきており、「home offices, hot desking, mobile working and remote working」と言ったスマートオフィスへと変貌しつつあることから、TRの内容にもスマートオフィス関連の例も追記することで合意された。また日本からのタイトル名の修正要望も採用されたため、今後はタイトルを修正の上、ISO番号を申請することで合意された。PWI-2「Automated office colour management」はProjectEditor候補が退社されたため、一時プロジェクトが停止していたが、知的財産権に関する調査を行った上でWDを準備し、次回12月のWG5会議で討議するという計画で合意された。
ISO/IEC JTC1/SC28	英国、ロンドン	6月15日～6月22日	12名(米4、中2、日本4、Administration staff 2)	栗原 進 (SC28/WG3J幹事、コニカミノルタ)	SC28/WG3取組み中案件である、ISO/IEC 17991(MFDのスキャン生産性)/29183(単票片面複写生産性)/24734(プリンター生産性)/24735(複写機生産性)の改訂に関して、NP/GPDラフトの審議を行い、今後の進め方を確定した。また、日本よりNWIP(Method for Photo printing productivity)を提案し承認された。
ISO/TC281及びWG1	シンガポール	7月26日～7月27日	英国、シンガポール、韓国、中国、米国、ロシア、日本	田中 充	①ファインバブル技術に関する“一般原則”第1部用語の出版が報告された。 ②“一般原則”第2部用語規格課題は、中国代表からスコープ記載の内容との齟齬が指摘され検討して改訂することで合意。米国代表から、水質規定表の国際的公平性の問題、製造方法によって電気化学的性質の同表規定にそぐわない事例があるとの指摘があった。また、海水の扱いも必要との意見が出た。PLが引用されている表の意味が規定要項でないことを説明し、中国および米国からの指摘に対応した内容を示し合意した。その他のコメントに対する修正が完了し、DISとして回覧することを決議。
ISO/TC281及びWG2	シンガポール	7月26日	英国、シンガポール、韓国、中国、米国、ロシア、日本	島岡 治夫	ウルトラファインバブルに関する日本提案「サンプリングと前処理」および「保存と輸送」について、NP投票の際のコメントへの回答を行い、2提案共にWDとしての登録を決議。今回の会議での審議に基づく修正を行った後、CD投票をスキップしてDISとして回付されることとなった。一方、マイクロバブルの評価に関する日本提案は、タイトルを変更し、オフライン測定の手法(LD,LO,DIA)に対応した規格化を進めることが決議された。10月中旬までに改定案をまとめ、12月開催の東京会議で提案予定。また、英国提案の「計測技術マトリクス」は、IS化をキャンセルし、TRとして再スタートすることが決議された。
ISO/TC281及びWG3	シンガポール	7月26日～7月27日	英国、シンガポール、韓国、中国、米国、ロシア、日本	(非公開)	・油分洗浄評価規格案(日本提案)は、洗浄対象を一般部品から機械部品へ変更すべしとの提案があり、この変更で合意し、タイトルを変更した。日本国内での比較試験を行い、次回東京会合で結果を元に規格案を議論するとした。その他、次回会合でサンプル固定方法を付録内で明示し、スプレーによる油塗布方法の再現性を明確にすることで合意した。 ・塩分洗浄評価方法(日本提案)は、ISとするよりもTRとして活用することが適切と判断され、10月末までにドラフト案を書き直すことで合意した。 ・レタスの成長促進への応用(日本提案)はTSとすることが適切とされ、そのNP投票を開始することで合意。

ISO/IEC/JTC1/SC35総会及びWGs	フランス、パリ	7月24日～7月27日	9ヶ国・30人	中野 義彦	<ul style="list-style-type: none"> <li>ISO/IEC 22121-1 WD 及ISO/IEC 22121-2 WD ⇒次回ジュネーブ会議後のCDを目標に進める。</li> <li>ISO/IEC 30113-12 ⇒8/15 NP投票へ。</li> <li>ISO/IEC 30113-5 CD ⇒2018/1/15にDIS投票開始。</li> <li>ISO/IEC 9995-12 AWI ⇒8/15 NP投票へ。</li> <li>ISO/IEC 30113-61 AWI ⇒次回NP投票へ。</li> <li>ISO/IEC 9995-9 WD ⇒9/30までに改定WDを配信。次回会議後PDAM投票開始予定</li> <li>ISO/IEC 30150 WD ⇒次回会議後にCD投票を目指す。</li> </ul>
IEC/SC77B/MT12	カザフスタン、アルマーティ	8月28日～9月1日	(伊) Carlo Carobbi (英) Stephen Colclough (仏) Loïc Levis (独) Holger Hirsch, Juergen, Pfirrmann, Bernd Jaekel (米) Bob Lounsbury, Dennis Thai, Robert Marquiss, Michael Heaney, (スイス) Alain Burger, Bruno, Straumann, Nico Hensgens (日本) Takeshi Ishida 15名	Hedderich Georg	<ol style="list-style-type: none"> <li>EFT/Bイミュニティ試験 IEC 61000-4-4、サージイミュニティ試験 IEC 61000-4-5の改正発行済規格について関連団体の動向及びその後の課題の確認を実施した。IEC 61000-4-5については、日本のITU-Tを通じて連携し情報を入手することが日本の課題となった。</li> <li>ダンプ波イミュニティ試験77B/776/CD IEC 61000-4-18の1st CDに対する各国コメントを冒頭より逐次審議した。その結果、まだ技術的な審議が十分完了していない理由から、次のステージは、2nd CDを発行することを決定した。今回審議した結果の課題を各パートに分担し、各国エキスパートに期限を定めてのデータの提出が求められた。</li> <li>次回メンテナンス審議を実施する静電気放電試験IEC 61000-4-2の新たな課題について協議した。</li> </ol>
ISO/PC 295総会及び WG 1	ロシア、モスクワ	7月25日～7月27日	中国(5名)、米国(2名)、ロシア(1名)、マレーシア(2名)、クウェート(1名)、フィンランド(2名)、オランダ(1名)、日本(2名)、ANSI(1名)、ロシア連邦会計検査院(4名)	木村 章展	<p>【主な議題】 ISO/PC 295 WG1で作成中の“Audit Data Collection” Working Draftの内容レビューとCD/DISIに向けた構成の確認及び今後の作業日程の検討である。</p> <p>【主な議論】 前回ニューヨークで会議をして以来、15回程度の電話会議を積み重ねていき、今回ロシアでの会議に参加した。今回の成果としてはDataTypeの追加などの主張も参加者に理解いただいた。今後のスケジュールとしては、WD4のドラフトを完成させる予定であり、10月ごろにWD4を固めて、来年1月以降DISIに進む予定である。</p>
IEC/TC112総会、WG2,WG7,AG11	オランダ、デルフト	9月25日～9月29日	オランダ、アメリカ、ドイツ、日本、IECセントラルオフィス等からのべ 65名	工藤 久明	<p>IEC/TC112/WG2で、コンビナとして司会進行した。TR61244-4のドラフトを審議し、2017年内にCD発行を目指すことで合意した。IEC/TC112/WG7で、TR60493-3等のプロジェクトリーダーとして日本提案のプリゼンをした。今後の方向性について了承された。また今年のTC112会議で退く現コンビナ岡本氏から後任の指名を受け、WG7は了承した。</p> <p>IEC/TC112/AG11で、SC45Aとのリエゾン状況を報告し、継続することが了承された。</p> <p>IEC/TC112プレナリ会議で、Head of Delegationとして参加した。WG2のコンビナ報告、WG7でコンビナ代理として報告をした。2017年10月以降からWG7コンビナを務めることが推薦され、投票の結果、了承された。</p>
IEC/TC122/ WG1,WG2	ドイツ、ベルリン	8月1日～8月3日	日本、中国、インド、ドイツ、スイス、オーストラリア 計28名	高尾 登	<ol style="list-style-type: none"> <li>IEC/TC122/WG1 現在、開発中のIEC 63042-101「電圧調整と絶縁協調」の1stCDIについて各国NCからの寄せられたコメントに対する回答を審議した。また、規格の完成度の向上を指向して2ndCDを実施することを決定した。</li> <li>IEC/TC122/WG2 現在、開発中のIEC 63042-201「変電所設計」について、WDの審議を実施した。日本から事前提出した約50項目のコメントは殆どが反映された。1stCDIに向けて修正を各国NCが分担して対応し、9月早々にはCDとして回付手続きをする事とした。</li> <li>今後の予定 11/7～11/10にインドにてWGとプレナリ会議を予定しており、WG1は、この会議までに2ndCDのドラフトを作成し、会議でこれの審議を実施する。WG2は、CD回付後に各国NCから寄せられたコメントへの対応について審議行う予定である。</li> </ol>
IEC/TC122/ WG2	ドイツ、ベルリン	8月2日～8月3日	日本、中国、インド、ドイツ、スイス、オーストラリア 計28名	羽田 尚之	<p>IEC/TC122/WG2に出席し、WDの審議とWG合同会議に出席し、次回11月予定のインド会議(以下、インド)に向けたスケジュールを確認した。</p> <p>(a) WG1(システム設計) IEC63042-101の2ndCDIについて、11月中旬の回付開始を目標とし、インドでは回付前の最終審議を実施する。またインドではIEC63042-102(システム設計)の審議を開始する。</p> <p>(b) WG2(変電所及び送電線設計) IEC63042-201のWDを8月中旬完成させ、1stCDを9月上旬目途で回付する。インドではCD回付後の各国コメントのObservationの審議を実施する。また、TC11のエキスパートを招聘し、送電線設計の規格開発の体制を審議する。</p> <p>(c) WG3(現地試験) IEC63042-301の1stCDを9月上旬目途で回付する。インドではCD回付後の各国コメントのObservationの審議を実施する。</p>
ISO/TC 127/SC 2/JWG 28	オーストラリア、ブリスベン	7月24日～7月26日	米国、英国、カナダ、オーストラリア、日本の専門及びEMESRT(連携参加)から計21名出席、他にWebEx参加1名	西脇 徹郎	<p>重ダンプトラックなどと周囲の車両、作業員との衝突回避のため、機械に、周囲の障害物の近接を感知し、警報及び制動など操作系に指令する機器を搭載する場合を扱う規格案WD 21815Iについて、案文検討し、論点として、1) 第2部で扱う機器と母機とのデータの通信は、自在なデータ流通を前提とするISO 15143のデータ辞書への登録にはなじまないとした。</p> <p>ただし、本来、母機側とのすり合わせで能力を発揮すべき機器であるが、プラグアンドプレイとらえている向きもあり、今後とも、母機側とのすり合わせを無視した動きとならないよう注意して対応する必要がある。2) 衝突気付き及び回避のほか、衝突気付き、衝突回避をそれぞれ規定も、前者は、ISO 16001=JIS A 8338危険検知及び視覚補助の改正案附属書1の形態認識と重複の懸念あり、日本担当のISO 16001は改正案発行を優先したいところである。</p>
ISO/TC167総会及びISO/TC167/ WG3	フランス、パリ	10月25日～10月27日	TC167/WG3:ノルウェー2名、米国4名、オーストラリア1名、カナダ2名、中国4名、フランス3名、ニュージーランド1名、日本2名、ロシア1名、英国1名、ISO1名	佐々木 栄一	<p>TC167/WG3:DIS17607が2017年7月9日期日の投票で否決された結果を受け、どのように対応すべきかについて各国の意見に基づき議論が行われた。その結果、WG3議長より、現在のプロジェクトをキャンセルし、DISを複数の規格に分割して改めて新業務項目提案(NWIP)を行う考えが提示され、TC167に付議することとした。</p>
ISO/TC167/ WG3	フランス、パリ	10月25日～10月27日	TC167:ノルウェー2名、米国5名、オーストラリア1名、カナダ2名、中国4名、フランス3名、ドイツ1名、日本2名、ロシア1名、ISO1名	伊山 潤	<p>TC167:WG3コンビナとTC167議長の選出結果の報告、FDIS準備状況(WG3でのDIS17607の状況)、NWIP案件(中国提案1件、イラン提案1件)の取扱い審議、TC167の今後の活動展開に関する議論が行われた。DIS17607について、プロジェクトはキャンセルされ、規格分割改定に関する委員会内投票(CIB)が行われることになった。次回WG3は2018年10月か11月に中国上海で開催される予定。</p>

ISO/TC172/ SC7/WG7	米国、シルバースプリング	9月11日～9月13日	参加国 7ヶ国 参加人数 24人	一戸 節	WG7単体としてFDAにて開催。眼内レンズ、及びエンドタンポナーデの規格に関して議論。 DIS 11979-7 Clinical IOL: フォーム形式、語句の修正のほか、トーリックやマルチフォーカルIOLに対応した臨床試験内容について追加・変更を検討。9月末までに変更点をまとめてDISを更新される。 DIS 11979-10 Phakic IOL: 主な論点は適用範囲と言葉の定義について。特に、クリニカルに絞った内容となるように議論された。 CD 16672 Ocular endotamponades: Perfluorocarbonに含まれる不純物についての議論。過去の事故例を元に、適切な規格を設けるための化学的な分析方法などを議論。 NWI 11979-5 Biocompatibility: 新プロジェクトとしてスタート。プロジェクトのスタートとして、スコープを中心に話し合った。日本から、西村氏と一戸がプロジェクト参加要請を受け承諾。 WD 11979-1 Vocabulary: 今年5月に募った数件のコメントを元に話し合った。 Addressing EDF: PWI 11979-7 Clinical IOL: EDFの定義について議論がなされた。
IEC/ SC86C/ WG3	ロシア、ウラジオストック	10月3日	18名(5カ国)	山田 誠	審議文書16件(主な文書を以下に記載) IEC 61290-1-1 光スペクトラムアナライザを用いた利得パラメータ測定法(日本担当) 改定案審議。次回合会で再審議。 IEC 61290-1-2 電気スペクトラムアナライザを用いた利得パラメータ測定法 SD審議。次回合会で再審議。 IEC 61290-4-3 出力一定制御型単一波長光増幅器の利得過渡応答特性評価法 CDVコメント審議。FDIS移行決定。 IEC 61290-4-4 利得制御型単一波長光増幅器の利得過渡応答特性評価法(日本担当) CDVコメント審議。RVC回覧後、FDISに移行決定。 IEC 61291-2 単一チャンネル光増幅器・テンプレート(日本担当) SD審議。 IEC 61292-3 光増幅器分類(日本担当) 日本からの修正方針を審議。次回合会でCD案審議。 IEC 61292-4 光増幅器における光損傷及び安全に関する光パワーの許容限界(日本担当) SD審議。3年延長決定。
ISO/TC268/SC1/WG3 及びTC 268内スマート交通関連WG会議	メキシコ、メキシコ市	10月22日～10月26日	日本12名 中国 2名	細川 寛	・日本提案の案件について、以下のとおり進捗があった。 1)「コンパクト・シティ向けスマート交通」(ISO/DIS 37157): FDIS投票に付すことで合意 2)「都市間ラピッド・トランジット型スマート交通」(ISO/WD 37159): CD投票に付すことで合意 ・日本から提案予定の案件について、以下のとおり進捗があった。 1)「ニュー・タウン設置向けスマート交通」及び「都市向け省エネ運行」: 提案に向けて議論を進めた。 ・これまで、日本提案案件が先行していたが、海外提案の諸案件についても、以下のとおりの進捗があった。 1)「パーク・アンド・ライドによるスマート交通ガイドライン」: 米固案の標題を改め、また、Form 4の提出を待つNWIP投票に付すことで合意
IEC/ SC86C/ WG2	ロシア、ウラジオストック	10月5日	11名 (4ヶ国)	村山 英晶	IEC 61757 Ed1: Fibre optic sensors – Generic specification審議 FDISを省略して出版を決議 IEC 61757-4-3 Fibre Optic Sensors – Part 4-3: Optical current sensors based on polarimetric method審議 TC38と調整しながら継続してCD登録を進めること、TC38とリエゾン構築検討することを決議
IEC/ SC86C/ WG2	ロシア、ウラジオストック	10月5日	11名 (4ヶ国)	高橋 正雄	・IEC 61757-4-3の議論 日本からのNP提案(PL: 高橋正雄)IEC 61757-4-3: Fibre optic sensors –Optical current sensors based on polarimetric methodが承認され、現在CD作成作業中。TC38から、作業の重複を指摘されており、この解決のため、6月に実施されたTC38/WG37(開催地: 十日町)に増田、高橋が出席したが、議論は平行線で結論に至っていないことを報告。この後の対応を協議し、Scopeにファラデー効果を用いたセンサ単体の規格であることを明記した上で、リエゾンの締結をTC38に提案することとなった。
ISO/TC232.WG4 AHG	ドイツ、ドレスデン	9月25日～9月29日	約30名(ドイツ、フランス、米国、ポルトガル、中国、日本)	吉川 厚	・ ISO/CD 29992について議論し、DIS登録することを決議。 ・ ISO/NP 29994について議論し、TC 232/WG 6を設置することを決議。 ・ ISO/NP 29995について議論し、TC 232/WG 5を設置することを決議。 ・ ビジネスプランの改訂について議論。ISO/TC 232の名称及び適用範囲についてのCIB投票を行うことを決議。 ・ ISO 29991:201の定期見直しの時期について議論。本件についてはCIB投票を行うことを決議
ISO/TC232.WG4 AHG	ドイツ、ドレスデン	9月25日～9月29日	約30名(ドイツ、フランス、米国、ポルトガル、中国、日本)	大槻 卓	・ CD投票時に提出されたコメントに基づきISO/CD 29992を修正し、DIS投票の実施を決議。 ・ ISO 29993:2017とISO/NP 29994の差分について議論した。WG 6の設置を決議。 ・ ISO/NP 29995はISO 29993:2017の用語・定義をベースとすることとなった。WG 5の設置を決議。 ・ TC 232の委員会名称及び適用範囲に関するCIB投票の実施を決議。 ・ ISO 29991:2014見直し時期の前倒し可否に関するCIB投票の実施を決議。
IEC/ACTADアジアメンバー会議	韓国、ソウル	9月26日～27日	IEC/ACTADアジア委員会議/WS: 2ヶ国12名 IEC/ACTAD アジア委員会議: 2ヶ国9名	正力 重仁	(1)IEC/ACTAD アジア委員会議/ワークショップ 各国からIoTやAIなどの最先端技術や、各国の電力事業・電力市場等の紹介が行われた。  (2)IEC/ACTAD アジア委員会議 ACTAD会議についての情報提供、およびワークショップの総括や今後の活動・スケジュールの確認が行われた。
JTC1/SC17総会及びWG8	フランス、パリ	10月9日～10月13日	33名(オーストリア、フランス、ドイツ、スイス、スロベニア、英国、米国、日本、中国)	金子 良明	・ISO/IEC DIS 14443-1,2,3,4の審議を行い、Part2を除きFDIS投票へ進めることを決議した。Part2は12月にWebEX会議を開催し、次回の会議でFDISへ進めるかを定める。 ・ISO/IEC PDAM 14443-2,3,4及びPDAM10373-6(Dynamic power level management)の投票結果のコメント処理を進め、DIS投票へ進めることを決議した。 ・ISO/IEC 15693-1, -2, -3改定案の審議を行い、Part1,2はDIS投票へ、Part3は2nd CDへ進めることを決議した。 ・ISO/IEC 10373-7の改定版(Rev3)をCD投票へ進めることを決議した。
JTC1/SC17総会及びWG1	フランス、パリ	10月16日～10月18日	6か国、総勢23名	前田 めぐみ	・ISO/IEC7810の改定のためのWDが決まりCD投票へ進める。他国が提案した規格の許容幅の変更について、日本からも疑問を投げかけ、今回のWDでは変更が見送られた。 ・ISO/IEC10373-1の改定のためのWDが決まりCD投票へ進める。新しい剥離強度評価方法について、全員賛成の試験方法が見出せず、2種類を併記することとなった。 ・ISO事務局起因のerrorを訂正したISO/IEC7811-1,2,6,7のWDが決まりFDIS投票へ進める。 ・ISO/IEC24789-1(2012),2(2011)の改定を正式に進めることにWG1内で合意し、SC17で決議を求めることになった。カード表面摩耗試験に関する日本提案のプレゼン。興味をもった3か国に試験してもらうこととなった。

ISO/TC178総会及びWG4,WG6	インド、ニューデリー	10月9日～10月12日	ISO/TC178総会 オーストリア、オーストラリア、中国、オランダ、フランス、フィンランド、ドイツ、インド、イタリア、日本、韓国、マレーシア、オランダ、アメリカ、カナダ、スイス、ノルウェー-Pacific Asia Lift and Escalator Association、ISO事務局 計19ヶ国・機関 約40人	宮田 毅	ISO/TC178総会 報告 一般情報としての市場動向の紹介、規格開発状況の紹介、ISO事務局報告等に引き続き、各WGの活動報告を実施。報告内容に応じて20件の議決を行った。規格開発に係る議決は次の通り。 議決項目は次の通り。 議決番号: 議決項目 001/2017 議事録作成委員会の委員指名 002/2017 リエゾンの確認 003/2017 戦略的業務計画の承認 004/2017 ISO 8100-33(ISO 7465)の改訂とエキスパートの募集 005/2017 ISO 14798:2009危険分析の評価 006/2017 ISO/TS 22559-3(ISO/TS 8100-22)の改訂に関する新規活動及び専門家の募集 007/2017 ISO/TS 22559-4(ISO/TS 8100-23)の改訂に関する新規活動及び専門家の招へい 008/2017 ISO 4190-5(ISO 8100-7)改訂に関する事前活動(PWI) 009/2017 ISO TR 25741の改訂に向けた専門家の募集 010/2017 ISO 8102-2 エレベーター、エスカレーターへの電氣的要求事項—その2 イミュニティに関する電磁両立性の改訂に向けた新規活動
ISO/TC178総会及びWG4,WG6	インド、ニューデリー	10月9日～10月12日	ISO/TC178/WG4 オーストリア、オーストラリア、中国、CEN/TC 10、フランス、フィンランド、ドイツ、インド、イタリア、日本、韓国、マレーシア、オランダ、アメリカ、カナダ、Pacific Asia Lift and Escalator Association 計16ヶ国・機関 29人	福山 栄男	ISO/TC178/WG4 報告 ①ISO/TS14798:2000(リスク・アセスメント手法)改訂の審議 ISO/TC178にISO/TS14798改訂要否のレビューと決定を行う作業の議決を要求することとなった。 ②ISO/TS 22559-3、ISO/TS 22559-4(エレベーターの適合性評価)改訂の審議 ISO/TC178に専門家の募集と両TSを改訂する旨のNWの議決を要求することとなった。 ③ISO8100-1/-2/DIS、ISO/TS8100-2/DTSに対し提出されたコメントの審議。 11/13-14に開催予定のTC145WG1の会議に出席しシンボルの対応方法を協議することとなった。 ④ISO8100-1/2、ISO/TS8100-3のAmd.開発スケジュールの審議 2020/12の発行を目指しAmd.の開発活動を行って行くこととなった。 ⑤EN81-20/Amd.1の開発状況の説明 CEN/TC10よりEN81-20/Amd.1の開発状況の説明があった。ISO/TC178から専門家をAmd.1開発に参画させることとなった。 ⑥各国の法規動向の説明 参加メンバーからエレベーター/エスカレーターに関連する各国の法規動向の説明があった。日本からは、ISO8100-1/-2をベースとした改訂JISの開発状況、非常用エレベーターとして使用することができる、機械室なしエレベーターの告示改訂について報告をした。
ISO/TC178総会及びWG4,WG6	インド、ニューデリー	10月9日～10月12日	ISO/TC178/WG6 オーストリア、オーストラリア、中国、CEN/TC 10、フランス、フィンランド、ドイツ、インド、イタリア、日本、マレーシア、オランダ、アメリカ、カナダ、Pacific Asia Lift and Escalator Association、ISO事務局 計16ヶ国・機関 29人	伊藤 和昌	ISO/TC178/WG6 報告 ①ISO 8100-30 (former ISO 4190-1) (エレベーターのかご及び昇降路寸法等)改訂の推進状況 現在、DIS投票に向けての準備が行われておりパブコメ投票は、11月末に開始される予定。 ②ISO 8100-7 (former ISO 4190-5) (制御、信号、アクセシビリティ)改訂の状況 クロスリファレンスとなるEN81-70の改訂スケジュールが年末にずれ込む見込み。 ③ISO 8100-30 (former ISO 4190-6)(輸送能力)に対し提出されたコメントの審議。 シミュレーションの扱いについて議論が分かれているため追加の専門家を募集して審議を継続する。 ④ISO TR 25741(耐震規程)改訂の状況 専門家の参加が少ないことから追加募集および登録済専門家の積極的参加を募った。 ⑤各国の法規動向の説明 参加メンバーからエレベーター/エスカレーターに関連する各国の法規動向の説明があった。日本からは、熊本地震の結果分析のWG発足、非常用エレベーターとして使用することができる、機械室なしエレベーターの告示改訂について報告をした。
ISO/TC178/WG5	インド、ニューデリー	10月9日～10月11日	ドイツ、オーストリア、フランス、イタリア、アメリカ、オーストラリア、韓国、日本、インド 計9か国、15名	小倉 健司	ISO/TR 14799-1: Comparison of worldwide escalator and moving walk safety standards -- Part 1: Rule by rule comparisonの更新作業 欧州、北米、日本でエスカレーター及び動く歩道の規格が定められており、欧州は、EN115-1:2017年版を、北米は、ASME A17.1/B44 2016年版を発行したため、本規格の更新作業を行っている。日本は、欧州、北米規格それぞれに該当した2016年度現在の建築基準法等の関連規定を本規格に当てはめ比較一覧表としてまとめている。
ISO/TC178/WG5	インド、ニューデリー	10月9日～10月11日		高木 雄司	
IEC/TC75/WG21	ドイツ、フランクフルト	10月10日～10月11日	ドイツ、アメリカ、フランス、ポーランド、日本 8人	中村 正雄	IEC TR 62746-2 Use Cases and Requirementsの更新について議論。新しいユースケースを追加することが凍結されていたが、日本よりその必要性と蓄熱ユースケースを説明し、追加の同意が得られた。また更新について①Core documentsも新しく作りEd.2とするか、②Annexに追加するだけとするかを日本が検討して提案することとなった。 IEC IS 62746-4 Data Modelの議論。コンピナから「CIM Object候補の中から選択したい」との意向が出された。Modeling Teamに参加しているCIM expertが推すCIM Object候補が異なることが確認された。 日本よりCIM需要家モデルの作成を効率よく行える「Basic Sequenceによる分析方法」を提案。コンピナより「現時点では反対はない」とコメントを得、継続審議となった。
IEC/TC108/HBSDT	カナダ、トロント	10月23日～10月26日	約50名(日本、米国、独、英国、中国、韓国、オーストラリア、他)	佐藤 幸一	今回の会議の主要目的として、IEC 62368-1 第2版(発行済み)を改訂するためにCDV文書が回覧、投票された結果を審議した。CDV文書への投票は賛成多数。各国から寄せられた意見を審議し、又新規提案も数点採用され、それらを反映してFDISとすることが合意された。また、IEC/TR 62368-2の改訂案CDIにたいする各国からの意見を審議した。 又、TC108が他のTC/SCと締結している各リエゾンについて、それぞれ状況報告があった。 この中で報告者(佐藤)は、IEC/SC3Cとのあいだのリエゾン担当者として、SC3CからのIEC62368-1に対する意見を報告し、TC108で対応策を審議した。また、前回のTC108/HBSDT会議で発足された電池関係AdHocではIEC電池規格の改訂に伴い必要なIEC62368-1の修正案を、報告者(佐藤)及び中国の委員が中心としてまとめた。この案は今回の会議の中で審議され、継続して検討することになった。なおこの案は、日本の電池業界からも広く意見をj得て進めたもの。

IEC/TC108/HBSDT	カナダ、トロント	10月23日～10月26日	約50名(日本、米国、独、英国、中国、韓国、オーストラリア、他)	柴田 恵	1)IEC62368(AV及びICT機器の安全)の第3版のCDV文書(108/688/CDV)に対する各国コメント計385件(内、日本から16件)の中で技術的内容を含むものに限り審議を行った。単一故障時の電圧の限度値を短絡直後の短時間に限り緩和を求める日本からのコメントは認められなかったが、エンクロージャ開口部に対するコメントなどその他の提案は採用され、FDISIに含まれることになった。 2)アドホックで検討してきた案件6件及び新規提案9件の審議を行った。日本が主導してきたSPDについてのアドホックは継続審議、日本からの新規提案4件の内、1 kHzを超えるACとDCが重畳した場合の提案については、次回以降継続審議、残り3件はEdcom等で対応されることになった。 3)一般消費者用のドローンに対する安全規格、車で使用するIT機器に対する追加要求事項などの課題が提示され、今後ACOSとも相談の上、検討していくことになった。
ISO/TC282/SC3/WG2 及び SC2	スペイン、マドリッド	11月20日～11月24日	カナダ、イスラエル、ポルトガル、韓国、中国、日本、スペイン 総勢約50名	豊原 大樹	SC1 Treated wastewater reuse for irrigation においては、WD 22238 Wastewater reuse – A guideline to wastewater disinfection and equivalent treatments について議論された。性能評価側面は日本がSC3でカバーするので、本文書からは削除すべき項目を指摘した。イスラエルによるWDのアップデートにむけて日本より12月10日までにインプットをおこなう。 SC2 Water Reuse for urban areas においては、中国から出されていたNP 23056 分散型再利用、およびNP 23070 RO淡水化技術のNPが可決となった。 SC3 Risk and performance evaluationにおいては膜協会からISO/NP 20468-5 Guideline for performance evaluation of treatment technologies for water reuse systems – Part 5 Membrane filtrationをNP提案し、投票中であるが、会議の合間に賛成投票を促すべく活動することができた。全体会議では、数多くのNPが出されていることから新規NP提案を凍結すべきとの意見が出されたが、中央事務局より、「活動を抑制することはISOの精神に反する。」との発言があり、これまでの方向性が確認された。
ISO/TC282/WG3	スペイン、マドリッド	11月20日	カナダ、イスラエル、日本 9名	樋口 賢治	日本薬局方記載の分画分子量6000の限外ろ過膜を本文に取り込む日本の主張に対して、本会議にて了承され、2018/1までにドラフト文書として発行されることとなった。 また、本件が「ガイドライン」から「要件」となることで、特に自国に局方およびGMPがない東南アジア等に波及効果大きく、日本の膜技術へのクローズアップが期待される。また、今春改定された欧州薬局方において注射用水の製造方法が蒸留法以外にも膜法も許可要件となったため、ヨーロッパの需要も見込まれる。
IEC/TC 122総会及びWG 2,WG3	インド、グルガオン	11月6日～11月8日	日本、中国、インド、スイス、IEC CO 計31名	羽田 尚之	WGで開発中の規格審議、TC122の現状と今後の方針について審議した。 (a) WG2(変電所及び送電線設計) 122/44/CD(IEC 63042-201 ED1):変電所設計(10/20投票締切)に対する各NCからのコメント(総数168件、内JPNC159件)について審議した。12/15までに国際幹事に提出し、2ndCDとして回付する。 (b) WG3(現地試験) IEC 63042-301 ED1 現地試験のドラフトCDIに対するJPとCN NCからのコメントシートを用いて審議を進めた。1stCDの11月中回付を目標とする。 (c) プレナリ会議 IEC/ACTADのTC122代表として財満氏の再任が了承された。 また次回プレナリ会議開催は2018.9/11～9/14 スイス/Badenと決定、国際幹事からFR,NL,RU,GBの各NCに次回会議への参加を促すこととなった。
IEC/TC76及びWG5	イタリア、ミラノ	11月6日～11月10日	12名(5か国) 英国、米国、カナダ、ドイツ、日本	鮫島 彰孝	(1)IEC60825-12(光空間伝送システムの安全) ・本規格の課題、解決案、次版改訂案のプレゼンテーションを行った。 ・今後の対応を下記の通り実施する。 ① 第2.0版:2017年12月末までに最終ドラフトをIEC COへ提出。 ② 第2.1版:2018年5月末までに1stドラフト案をWG5メンバーへ回覧。 ③ 第2.1版:2018年7月末までに1stドラフトをIEC COへ提出。 (2)IEC60825-2(光ファイバシステムの安全) ・第4.0版1stドラフトに対するコメントについて、議論を行った。 ・今後の対応を下記の通り実施する。 ① 2018年2月までに2ndドラフトをWG5メンバーへ回覧。 ② 2018年4月までに2ndドラフトをIEC COへ提出。
IEC/TC109/MT1	ドイツ、ボン	11月28日～11月30日	フランス、ドイツ、オランダ、日本、アメリカ、デンマーク 15名	住谷 淳吉	(1)IEC 60664-1の改正案審議 機能絶縁は、安全に関係するか否かの長い議論があり、結果としてTC109では決定せずに、各TCがリスクを考慮して(リスクアセスメントにより)規定を決定することとした。 その他、CD文書に対する各国審議(約150コメントの審議)を行い、2月初旬までに2CDを用意する。  (2)次回の会議 今回は、6月に東京で会議を開催する。
ISO/TC178/WG8	カナダ、バンクーバー	11月1日～11月3日	アメリカ(2)、フィンランド(1)、オーストラリア(1)、日本(2) 計4か国、6名	松井 良介	ISO 22201-2 : Lifts(elevators), escalators and moving walks – Programmable electronic systems in safety related applications – Part 2: Escalators and moving walks (PESSRAE)のAnnex B Table B.1(相互比較表)の更新作業。 欧州、北米、日本でエスカレーター及び動く歩道に定められた規格の内、安全機能に関するものについて、欧州は、EN115-1:2017を、北米は、ASME A17.1-2016/CSA B44-16を、日本は、欧州、北米規格それぞれに該当した2016年度現在の建築基準法等の関連規定を本規格に当てはめ相互比較表の更新作業を行っている。
ISO/TC178/WG8	カナダ、バンクーバー	11月1日～11月3日		坂田 幸司	
IEC/TC122 UHV/AC送電システム	インド、グルガオン	11月6日～11月8日	日本、中国、インド、スイス、シンガポール(IEC事務局) 計31名	加藤 辰也	(1)IEC/TC 122/WG 1(システム設計) ・2nd CDの素案に関する議論とCDの発行に向けたスケジュール調整を実施。 ・新テーマの内容に関する議論とNWIPの作成に向けたスケジュール調整を実施。 (2)IEC/TC 122プレナリ会議 ・各WGからの進捗報告および今後のスケジュールが報告。 ・関係委員会からの報告。リエゾンメンバーを議論。 ・WG 1のCo-Convenorの変更が承認。
IEC/TC122 UHV/AC送電システム	インド、グルガオン	11月6日～11月8日	日本、中国、インド、スイス、シンガポール(IEC事務局) 計31名	正力 重仁	IEC/TC122/WG1およびプレナリ会議に出席し、WGで開発中の規格の協議ならびにTC122の現状と今後の方針について確認した。 (a) WG1(システム設計) 2nd CD "IEC 63042-101 : Voltage regulation and insulation coordination : Part 101: の最終案について協議し、11月中旬に回付する旨が決定された。また新しい規格IEC 63042-102についての進め方について議論が行われた。 (b) プレナリ会議 ・WG1のCo-convenorの変更が承認された。 ・各WGの進捗が確認されるとともに、次回会議の日程が決定した。 ・IEC/ACTADのTC122からの代表としての財満氏の再任が了承された。

IEC TC8/SC 8A/WG 1及び AHG3	米国、ポルダール	12月12日～12月14日	日本、中国、ドイツ、アメリカ、オーストラリア、スペイン 計17名	原 宗成	(a) WG1(再生可能エネルギーの系統連系に関する用語) IEC 62934WDに対する各エキスパートからのコメントについて審議。2018年末までに1stCDとして回付することとなった。 定義された用語はAnnexに入れることを提案したが、必要なものを反映するというコンビナの意見が反映された。規格としては重複を避け、必要最低限とすべき旨今後も提言していく。 (b) AHG3 (再生可能エネルギーのロードマップ) テクニカルレポートの作業草案について審議。 新JWG(SC8AとTC82(太陽光)およびTC88(風力発電))での成果物等について審議した。システムの問題を扱うJWG5を立ち上げ対応していくことが決定された。 新たに7つのテクニカルレポート作成の提案がされたが、IECは規格を作るのが目的でレポート作成が目的ではないことから、機能(太陽光、風力)毎にまとめることを日本より提言。
ISO/TC178/WG4/TFC (Convergence Task Force会議)	イタリア、ミラノ	1月30日、31日、2月1日	カナダ、アメリカ、フランス、フィンランド、イタリア、オランダ、オーストリア、スイス、日本 計9ヶ国・機関 13人	今井 一郎	(1)ISO8100-1のグラフィックシンボル(ピクトグラム) 危険箇所をイメージできる「天井注意標識」と退避姿勢を示す補助標識を併せて表3、表4ともに適用することとなった。なお、本変更による改訂はFDIS投票とせず、編集的改訂の確認投票とすることで問題ないか確認する。 (2)ISO発行までのスケジュール 上記シンボルの可否について、WG4内で確認し、ドラフト修正後のTC178での投票を経て、ISO 8100-1、2、3は、2018年7月に発行される予定である。 なお、フェーズ2の改訂スケジュールは、上記の遅れを勘案して2021年6月発行に見直した。 (3)ISO/TS8100-3の改訂 今後のJIS原案の国土交通省等のコメントにより、ISO/TS8100-3への反映が必要になると思われるので、Phase2活動は必要とした。 JISは特にコンバージェンスが必要な項目はなしとした。 また、油圧エレベーターを含めるかどうかの議論もあったが、将来の改訂項目となった。日本でもJISの改訂も油圧を含めたものにするかの検討が必要である。
ISO/TC178/WG4/RATF (Risk Assessment Task Force会議)	イタリア、ミラノ	1月29日	アメリカ、フランス、フィンランド、イタリア、オランダ、スイス、日本 計7ヶ国・機関 11人	福山 栄男	(1)「ユーティリティ」会議での議決(2017/0001)に対する議論 1)ISO 14798(リスク分析手法)が最先端技術を表すことを保証するプロセス 2)PSSRALとSILの適用によるリスクの低減の範囲 3)ガイダンスを別TRとするかISO 14798に包含させるか について議論した。1)、2)は議論継続、3)は別TRを作成することで合意した。 (2)ISO 14798とEN81-80との両立性評価 ISO 14798とEN81-80とでリスクのクラス分けの考え方が異なってくるため、統一性について次回の北京会議での議論することをWG4議長に提案した。 (3)ISO 14798 ANNEX F(建築物とのインターフェース)内容確認 日本が作成した追加ドキュメントは、以前日本からの質問の回答内容と一致していないとの指摘があり見直すこととした。 (4)今後の活動確認 改訂の緊急性を議論したが、日本を含め緊急改訂の要望はなし。当初の目標であった具体例の追加だけでなく、リスク低減の方法論も含めて継続して議論する。
ISO/TC178/WG4/RATF (Risk Assessment Task Force会議)	イタリア、ミラノ	2月1日	カナダ、アメリカ、フランス、フィンランド、イタリア、オランダ、オーストリア、スイス、日本 計9ヶ国・機関 13人	伊藤 和昌	TFC会議の最終日にCEN/TC10AH17でのリエゾン会議が開催され、EN規格の開発動向、情報を共有。 (1)CEN/TC 10 work program 配付された資料にて、CEN/TC10全体の規格の開発状況の説明があった。 エレベーターに対する標準化要求M/549が欧州委員会から発行され、それに伴いEN81-20/50を含めた全ての関連規格の附属書ZAを改訂し発行を行う。 (2)EN81-20/50(エレベーターの安全要求事項)の改訂進捗 各AHグループの改訂進捗とインタープリテーションの進捗の説明があった。改訂案は、2018年9月完了予定である。 (3)各AHグループからの報告 AH2(ドア)、AH3(主索)、AH6(電気関連)、TF(Amendment)の各グループから進捗報告があった。 (4)エスカレーター関連 資料にて概要の説明があった。EN115-5(既設ビルへ設置する新設エスカレーターの要求事項(EN81-21相当))の開発作業が開始される。
IECEE / TF Categories, WG3, WG10, TF Operations and Structure, CAG	アメリカ、レイクフォレスト	2月5日、7日、8日、9日、12日の会議に出席	日本、中国、韓国、アメリカ、カナダ、ドイツ、フランス、ノルウェー等(会議によって異なる) 参加者数:若干名～30名程度(会議によって異なる)	近藤 繁幸	・IECEE副議長として、またWG10のコンビナーとして以下の会議に出席した。 1)IECEE CB制度の製品カテゴリー分類の見直しを検討するTF、2)IECEE規定文書の改訂を検討するWG10(2日間)、3)IECEEの組織・運営の見直しを検討するTF、4)各Committee/WGからIECEE議長への進捗報告や関連外部組織の情報・協力状況の報告の会議であるCAG ・カテゴリー分類と組織・運営の見直しのTFではそれぞれ変更案がまとまった。また、文書変更のWG10では、CB制度の参加機関の新カテゴリー設置に関する規定文書の作成、IECEE内の会議議長の選任手順に関する規定文書の改訂、IEC CAB(上位組織)の規定改正に伴うIECEE文書への影響調査と規定文書改訂案の作成等を行った。6月の総会に諮る。これらのTF/WGのドラフトは、後日IECEE事務局からIECEE国内委員会に提示され、コメント募集がされた後、6月の総会で承認が予定されている。なお、CAGでは各報告が議長に対しておこなれ、意見交換が行われた。
IECEE/PSC(方針・戦略委員会)	アメリカ、レイクフォレスト	2月8日	12カ国 (日本、アメリカ、カナダ、中国、シンガポール、韓国、イギリス、ドイツ、フランス、フィンランド、ハンガリー、デンマーク、スウェーデン) 参加者数:32名(IECEE事務局を含む)	地主 真悟	PSCはIECEEの今後の方針・戦略を議論することを目的とした委員会。公平で健全な発展に向けた議論を行うために、加盟国承認された産業界および認証機関のエキスパートによって構成され、また両者が揃って出席しなければ正式な出席国として認められない。 昨今のPSCの主な審議事項は、1)産業界の参加促進、2)今後のマーケットニーズ 3)運用実績の少ないプログラムの廃止 の3点である。 産業界の参加をいかに促すかについては、TFからの提案を受けて、産業界を対象としたセミナーや刊行物を検討することが決議された。 今後のマーケットニーズについては、新たにUNEPから省エネ分野での協力の提案があり、今後双方からエキスパートを派遣し、どのような協力関係が構築できるかを検討することになった。 運用実績の少ないプログラムの廃止については、含有物質管理や太陽光発電の品質マーク認証などの廃止を推薦することが決議された。
ISO/TC29/WG34	フランス、パリ	1月18日	7か国24名(フランス、イスラエル、スウェーデン、ドイツ、イギリス、スイス、日本)	堺 弘司	ISO/DTS 13399-306、ISO/DTS 13399-313、ISO/DTS 13399-314、ISO/DTS 13399-315、ISO/DTS 13399-403、ISO/DTS 13399-406の投票結果に基づき、各コメント等についての審議とMaintenance Agencyのメンバーについて議論された。

IEC/SC77B/MT12	ネパール、カトマンズ	1月29日～2月2日	(伊) Carlo Carobbi, Alessandra Bertino (英) Stephen Colclough (仏) William Magnon, Thierry Rafesthain (独) Michael FÖRTSCH (スイス) Alain Burger, Bruno, Straumann, Nico Hensgens (日本) Georg Hedderich, Takeshi Ishida 計11	Hedderich Georg	静電気放電イミュニティ試験 IEC 61000-4-2の改正に対する各国コメント77B/575/INFに対して今後の改正作業の方向性を審議した。次の点などの方針を決定し、次回9月の会議にてCDを作成することが決定された。 ・放電電流波形測定方法の問題点を整理する。 ・法波形校正が実現できない気中放電を本文から外し附属書(参考)に移行させる。 ・各種機器に対する試験セットアップの見直し。 ・ESD発生器の電磁界に対する更なる情報の追加 ・新たなウェアラブル機器に対する試験法を確立する。 2) ダンプ波イミュニティ試験IEC 61000-4-18の77B/776/CDの各国コメント反映版に対して懸案事項となっていた波形校正の規定や、結合素子にGDTを使わない規定などを盛り込んだ案を仕上げCDVとして4月に発行する。
ISO/IEC JTC1 SC35総会	スイス、ジュネーブ	2月12日～2月16日	仏・AFNOR 3, 独・DIN 1, 韓・KATS 4, 加・SCC 3, 瑞・SIS 1, 西・AENOR 1, 日・JISC 8 合計8ヶ国・21人	中野 義彦	・ ISO/IEC 22121-1 WD 及ISO/IEC 22121-2 WD(仮想キーボードのユーザインタフェース) ⇒次回岡山会議後のCDを目標に進める。 ・ ISO/IEC WD 30113-12 (マルチポイントジェスチャ) ⇒3/15 CD投票へ。 ・ ISO/IEC 30113-5 DIS(ジェスチャーインタフェースのマークアップ言語) ⇒岡山会議後にFDIS投票開始。 ・ ISO/IEC 9995-12 AWI(キーボードグループ選択, 各国キーボードへの切り替え) ⇒4/15 CD投票へ。 ・ ISO/IEC 30113-61 AWI(シングルポイントジェスチャ) ⇒3月NP投票へ。 ・ ISO/IEC 9995-9 WD(マルチスクリプトキーボード) ⇒3/15までにエディタがPDAM案送付, 次回会議前にPDAM投票結果を得る ・ ジェスチャ関係(30113シリーズ)は新設予定のWG9で扱う
IEC SC86C/WG2	アメリカ、サンディエゴ	3月18日	12名(6か国) ドイツ, フランス, スイス, ノルウェー, 米国, 日本	村山 英晶	前回議事録承認。Stability dataが2019年IEC 61757-1-1とIEC 61757-2-2について釜山で内容の確認を行う。IEC 61757-1-2のNPドラフトが説明された。NP提案が7月6日までに提出することが認められた。IEC 61757-4-3のCDドラフトが説明された。信号処理部をブラックボックスとせずに、光計測を含めた形で示すよう意見があった。6月中旬までにCD案を関係者に回覧し、7月6日にCD登録することが認められた。WG2を他のWGとは別の日程・場所で開催するかどうか議論された。基本的には同時期・場所で開催がよいとの意見でまとまった。
IEC SC86C/WG2	アメリカ、サンディエゴ	3月18日	12名(6か国) ドイツ, フランス, スイス, ノルウェー, 米国, 日本	高橋 正雄	・IEC 61757-4-3の議論 日本からのNP提案(PL: 高橋正雄)IEC 61757-4-3: Fibre optic sensors –Optical current sensors based on polarimetric methodが承認され、現在CD作成作業中。 TC38から、作業の重複を指摘されていたが、提案していたリエゾンの締結で解決した事がConvenorから報告された。TC-38のリエゾンオフィサーはカナダのFarnoosh Rahmatian。 現在作成中のCD案の説明を実施。光学特性の評価項目追加が助言された。日本側で6月中旬までにCD案を作成し、WG2内に回付の後、次回10月のブサン会合でCD審議を行うことが決定された。